

現場に始まり 現場に終わる 現場力②



ハセガワエスティ
代表取締役社長
長谷川卓史氏

ト性』と『演技力』です。しかも、やり過ぎない、さりげない演技力です。

司会者がストーリーテーターに

最近の披露宴の多くは再入場シーンの曲にこだわったり、王子のようにはひざまづき、花束を花嫁に渡すブーケプロポーズが人気です。後者は花嫁へのサプライズとして、ここ何

ある時は魔女の声で…

5分間という時間ですが、身内だけでうける演芸会にならないためには、司会者の演技力が求められます。台本によっては、ある時は魔女のセリフを、など、さまざまなお要望にお応えしました。(笑)

プロの司会として、お客様の要望にこたえられるのは本当のプロフェッショナルとは言えない。そしてお2人の心のメッセージを、ご列席された方々に感じとって頂かなければなりません。

今号よりお客様の結婚式に対する本質を大切に、そしてそのメッセージを表現した結婚式のスタイルを実例交えてご紹介いたします。

皆さまもご存知のように、かつての司会者は司会台からジッと動かないことが当たり前でした。もちろん、当時はそのスタイルが婚礼司会者の形でしたから、誰も違和感なく結婚式に列席していました。

ところが結婚式のステージが、レストランや一軒屋スタイルなど幅が広がり、よりアットホームな雰囲気を求めるカップルが増えました。その流れでここ10年くらい、司会のスタイルも変わり、ご列席された方も楽しめるようアドリブをきかせた「リポーター」的役割へと変化してきました。

そしてこれからの司会は『タレン

『演技力』を求められるブライダル司会者時代に

年かよく見かけるシーンです。

最近 それを、更に膨らませた「童話をもとにしたStoryのあるパーティー」を、体験しました。童話のお姫様が王子に出会い眠りから覚め…というものです。

実際におしゃれな寝衣セットを組み、その回りをたくさんのパラで飾りました。

そして2人の入場前には司会者がストーリーテーターとして、衣裳を身につけ登場し、ストーリーを語りました。その際、照明・BGM・映像としてオペラ歌手も加わり、台本のある演出を5分間で作成し、実演したのです。

プロフィール

(はせがわたかし)
1963年10月16日、総合家具販売会社の3代目として千葉に生まれる。中央大学商学部卒業後、経営の道を歩み始める。30歳を越え婚礼司会者に転身。2000年起業し、現在国内最大手、年間1万組を超える企業に成長した。

読者のなかには「そこまで演出するのかわか？」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、今、20代の新郎新婦の感性の枠組みは、これまでの婚礼常識を超えています。その感性も読み込まなければ、「新商品や新アイテムのアイデアも生まれません」と現場で司会をして痛感します。「現場の中に、また、新郎新婦の声の中に時代のニーズあり」と思うのです。